

## Lehrerhandbuchについて

この教授用資料 Lehrerhandbuch (以下 LH と略記) には、

- ①コラム
- ②Spiel、Hörverstehen、その他の課題・問題などの使用方法、解説、模範解答
- ③文法の補足練習問題
- ④補足練習問題の解答（例）
- ⑤Hörverstehenなどのスクリプト
- ⑥アクティブラーニング的アプローチによる Lesetext を使ったグループワーク
- ⑦Arbeitsblatt

をまとめています。

①コラムは各章の Lesetext の内容理解を促進させるためのものです。授業内で Lesetext を読む際の補足説明の材料として、あるいは配布資料としてお使いください。

②この LHにおいては、新学期の導入に当たる第0章と、教科書本体が始まる第1章に一般的な使用上の説明も付記されていますので、お読みいただけますと、比較的スムーズにお使いいただけるかと思われます。

1回の授業時間としては90分を想定しています。各章を終了するには、3回から4回の授業を前提にすることをお勧めします。

この LH に記載されている方法は、われわれ執筆者の提案にすぎないとお考えください。さまざまな条件によって、授業進行にいくつもの可能性があることだと思います。ご担当のクラスの事情をご勘案いただいたうえで、この LH を授業運営の参考にしていただければ幸いです。

③と④はスペースの都合により、教科書に文法事項のみの掲載になったものの例文兼練習問題です。授業時間内での文法事項の確認として、あるいは宿題としてご使用ください。

各問題の右上に付されている (KB : S. XX) は練習問題が該当する教科書 (KB = Kursbuch) のページです。

⑤、⑥、⑦は必要に応じて適宜ご利用ください。

教科書本体およびこの教授用資料も、実際にご使用になった場合、不十分な点もあるかと思います。ご使用になった先生方からのご叱正、訂正のご指摘、改善のご提案などをいただけましたら、これに優る喜びはございません。先生方からのご指摘を受け、一層の充実を図っていきたいと考えております。

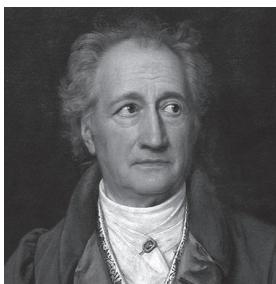
最後に、この教科書は原稿の段階において、執筆者の一人である三ッ石が、その担当する大学の授業で実験的に使用し、その際浮かび上がった諸問題や学生たちからのコメントについて執筆者一同が検討を重ねて完成したものです。

協力してくれた学生たちに心から感謝いたします。

執筆者一同

# Kapitel 0 Hallo!

## ゲーテの戯曲『ファウスト』について



この教科書の案内役を務めるファウストとメフィストフェレスは、ドイツ文学史上最高傑作ともいわれるゲーテ (Johann Wolfgang von Goethe, 1749-1832) の戯曲『ファウスト (Faust)』第一部、第二部の中の最も重要な人物である。ゲーテはシラー (Friedrich von Schiller, 1759-1805) とともにドイツ文学の最初の黄金時代を 18 世紀最後の四半世紀から 19 世紀の最初約 30 年間において創り上げた詩人である。悲恋の物語『若きウェルテルの悩み』(書簡体小説、1774 年) によって、それまではマイナーな存在であったドイツ文学を一挙に世界に知らしめたのもゲーテであった。

ゲーテは若い頃から、15、16 世紀に実在したといわれる魔術師ファウスト博士という人物をめぐる古くからの伝説的な題材に魅了され、これを作品化しようとする野心を抱いていた。『ファウスト第一部』を書き上げ、出版したのが 1808 年、そして『ファウスト第二部』の原稿をようやく完成させたのが彼の死の前年である 1831 年のことだった。文字通り『ファウスト』はゲーテの生涯のテーマであり、生涯を通じてゲーテはこの作品の完成に努力したのである。以下、あらすじを紹介する。

戯曲『ファウスト』は「序曲」「第一部」「第二部」から成る。「天上の序曲」で悪魔メフィストフェレス（通称メフィスト）が神の愛するファウストを誘惑できるかどうか賭けをする。神はメフィストに対して、努力する限り人間は迷うものである。しかし暗い衝動に動かされることはあっても、よい人間は正しい道を忘ることはない、と言ってファウストが地上にいるかぎり悪魔の自由にさせることを約束する。

### 『ファウスト』悲劇第一部

あらゆる学問をきわめたファウストは 50 代の半ばをすぎて結局、われわれは何も知ることはできないのだ、という認識に到達する。宇宙を支配する力を知ろうと魔術で地縛を呼び出すが、あまりの偉大さに圧倒されてしまう。自分の無限の知的欲求を満たすには有限である肉体から解放されるしかないと思い、毒を飲んで自殺しようとするが、復活祭の鐘の音と聖歌隊の合唱の声を聞いて生命へのいとおしさがこみ上げ、死を思いとどまる。復活祭の日、助手のヴァーグナーと散歩をしていたファウストに黒いムク犬の姿になったメフィストがついてきて書斎に入り込む。書斎でファウストは聖書を訳そうとしてヨハネ福音書の冒頭の句「最初にロゴスありき」のロゴスをどういうドイツ語にすればいいのか悩み、結局「行為」と訳して安心する。ここで聖書にかかずらうファウストに不安を抱いたムク犬メフィストは、ファウストに正体を見破られてしまうが、からくも逃げ出す。

数日後、騎士の姿で登場したメフィストはファウストを広い世界に導き、ありとあらゆる快樂を味わわせてやると申し出、この世でメフィストがファウストの召使いのようになるかわりに、もしファウストがメフィストの誘惑に満足を見いだし、ある瞬間に向かって「とまれ、お前は美しい」という言葉を口にしたら、ファウストは死んでその魂をメフィストにくれてやるという契約を交わす。

「小世間を見てから大世間を見ましょう」というメフィストはファウストをまずはアウアーバハの酒場に案内し、「魔女の台所」で若返りの薬を飲ませ、20 代



の美青年に若返らせる。青年ファウストは往来で見かけたマルガレーテ（グレートヒエン）に一目惚れし、彼女を誘惑して愛し合う。そしてファウストはグレートヒエンの母親を誤って死なせ、その兄を決闘で殺す。グレートヒエンはファウストの子供を産み、発狂してその子を殺す。メフィストがファウストをブロッケン山でのワルブルギスの饗宴などの享楽の場に連れていっていたため、ファウストはこのグレートヒエンの悲劇を知らずにいる。やがて彼女の悲惨な状態を知ったファウストは彼女を救おうとするが、グレートヒエンはファウストとともにいるメフィストを嫌って救いを拒み、神の裁きに身をゆだねて死んでいく。メフィストは「彼女は裁かれた」と叫ぶが、天上から「救われた」という声が響く。

## 『ファウスト』悲劇第二部

ファウストは疲れ果てて野に横たわっているが、空気の精アーリエルなどによる慰めによって苦悩と疲労から解放され、再び生きる力を得て、現象の世界へと歩みである。「大世間」である神聖ローマ皇帝の宮廷に辿り着いたファウストは、皇帝の窮迫した財政を紙幣の発行によって立て直す。経済的危難から解放された皇帝はファウストにギリシャの神話的美女ヘレナとトロイア王子パリスを呼び出すよう命じる。そこでファウストは過去から未来にわたる一切のものの範型が保存されている「母たちの国」にでかけ、メフィストから渡された鍵の力で三本脚の香炉を引き上げ、そこから立ち昇る香煙の中にヘレナの姿を現出させる。幻にすぎないヘレナの美しさに恍惚としたファウストが鍵で香炉に触れると、爆雲が生じてファウストは昏倒し、メフィストは彼を宮廷から連れ出す。

以前の書斎に戻ったファウストは昏倒したままであるが、そこではかつての弟子ヴァーグナーがいまや碩学として人造人間ホムンクルスの製造に携わり成功する。昏倒したファウストを目覚めさせるため、メフィストとホムンクルスはギリシャ最古の伝説の地テッサリアへと飛んでいく。テッサリアの地では、妖怪たちが跋扈し、いわゆる「古典的ワルブルギスの夜」が展開される。昏倒から目覚めたファウストは、ヘレナの姿を探すが、そこには見つからない。純粋な靈的存在であるホムンクルスは心身を備えた存在になりたいと願い、光を放ちつつ飛び回るが、愛の女神ガラテアに見られ、その貝の玉座に触れて、保護のためのレトルトが碎け、輝きつつ消滅していく。ファウストはヘレナを求めてギリシャの諸地方をさまよい、冥界の女王に会い、ヘレナに会わせてくれるよう頼む。冥界から復帰したヘレナは元の夫のメネラウスのもとに戻るが、夫の嫉妬によって殺されそうになり、北方に逃亡し、そこで北方民族の首領たるファウストに会う。ふたりは結婚し、オイフォリオンという美しい息子が生まれるが、ギリシャの独立戦争に参加しようと飛び立ち、墜落死してしまう。これを見てヘレナも再び冥界に戻っていく。

美の追究によっても満足を得られなかつたファウストは苦境に陥った皇帝軍を助け、その礼として広大な海浜の領土をもらう。ファウストはこの土地を干拓し、新しい国造りに乗り出す。理想の国を創り上げること、これが初めて彼を幸福にしたのである。ファウストは灰色の女「憂愁」の息を吹きかけられて盲目になっていたが、この理想実現のための土木工事の音を聞き、社会にとって有意義な行為の中に人生の意義を認めて「おれは瞬間に向かってこう呼びかけてもよかろう。とまれ、おまえはいかにも美しい」という言葉を発する。ファウストは賭けに負け、倒れて死んでしまう。メフィストは魂を抜き出そうとするが、メフィストがファウストに「塵芥を喰わせて」自由にすることができたのは、地上においてファウストが生きている場合のみであった。塵芥である無意味な享楽には満足しなかつたファウストは、今は死んでおり、メフィストの自由にはならないのである。天使たちが現れバラの花を降らせて、悪魔たちはその花に体を焼かれて退散する。ファウストの魂が地上を離れていくにしたがって、聖人や聖女たちが現れる。その中にはグレートヒエンがおり、聖母にファウストの魂の救済を懇願する。ファウストの魂は天国に導かれ、神秘的な合唱の「永遠に女性的なるもの、われらを引き上げ昇らしむ」という言葉とともに幕が下りる。

# Kapitel 0 Hallo!

S. 6-7 この導入の章では、これからドイツ語と一緒に学ぶ、新たなクラスメイトとの相互関係を円滑にするための自己紹介の仕方を掲載しています。クラスの緊張感をほぐすには、隣同士あるいはグループ内でこういった自己紹介をドイツ語で行うことがきわめて有効です。緊張感がほぐれれば、学習効果も目に見えて向上するはずです。

最初のファウストの自己紹介文もメフィストフェレスの自己紹介文もパターンは同じです。クラスの事情を勘案して、これらの自己紹介パターンをご使用ください。以下に一例を挙げます：

**ステップ1** 教科書の表紙のファウストとメフィストのシルエットを見ながら音声を聞く。受講者たちが聞き取れた単語や表現を集め、黒板などに書いておくと、いいでしょう。もう一度音声を聞き、1回目に音声を聞いたときに聞き取った単語や表現が実際に使用されているか、またどちらのシルエットがファウストで、どちらがメフィストなのかをクラス全体で確認する。

**ステップ2** 教科書6～7頁を開き、6頁のInterviewの下線部に受講者自身の情報を書き入れる。単語などは7頁のイラストを参考にする。確認のため、数人の受講者が書き入れた情報を使ってドイツ語で自己紹介する。

S. 6

## Interview

教科書の指示に従って、行ってください。聞いた情報は7頁の下段の空欄に書き入れます。

### インタビューさせる場合

- ① グループ分けしてグループ内で行う。
- ② 教室内で受講者が自由に動いてインタビューする。
- ③ 全員を二列に向かい会った形で並ばせて、1分と制限時間を設定して、正面にきたクラスメイトのインタビューをさせ、1分たら、全部の情報を聞いていなくとも一人ずつずれて、次の正面にきたクラスメイトにインタビューをさせる。

などが考えられますが、重要なのは、ここでクラスの中をうちとけさせることです。

インタビューの後、7頁下段に書き入れた情報を使用して、Er heißt..., Sie heißt...などと、自分がインタビューした人をほかのクラスメイトに紹介することもできます。

S. 8-9

## ▶ 語順のごく一般的な原則

この箇所では標題の通り、「語順のごく一般的な原則」について述べてありますが、語順はご存じのように、厄介なもので、さまざまな例外などが含まれています。ここでは「おおざっぱに」、一般的な原則の説明をするだけに留めていただき、以後の授業の過程で語順の問題が生じた場合に、ここに戻って説明し、例外などはドイツ語を読んでいく過程で習得していくほうが近道であるという点を、受講者に実感してもらうという方法がお勧めです。

## ■副詞の語順

正確には副詞および副詞句の語順も説明していますが、簡略化のために標題のように「副詞の語順」としています。ここでは、「時間と場所の副詞（句）は、とくに強調する意図が話者になくても、文頭に置くことが多い。その他の副詞的文成分の場合は、とくに強調する場合にのみ文頭に置かれる」という「原則」のみの言及で十分ではないかと思います。

S. 9

### Aufgabe

#### 和訳例

- 1) ファウストはワインではなくビールを飲みます。
- 2) 彼はワインを飲みません。
- 3) 私は長い間働いていませんでした。
- 4) 私は長時間は働きませんでした。

以下に課題を掲載しておきますが、クラスの事情をご勘案のうえ、ご使用ください。

---

#### 課題 センテンス・パズル

---

- ・文を作るための語句が書かれたカードのセットは4セットあります。
- ・1セットの語句を正しい順番に並べると1つのセンテンスができます。
- ・最後に全部で4つのセンテンスを正しい順番に並べると、一つのエピソードになります。

次のページをコピーして4つのセンテンスを×マークのところで切り離し、4セット、語句のセットを作ってください。

その際、4つのセットが混じらないことに注意し、また各セットを個別にシャッフルしておいてください。

#### 基本的な使い方

- ① クラスの人数に応じて、小グループに1セット、あるいは4人一組の各自に1セットを配布します。
- ② この時、受講者に話全体の何番目のセンテンス担当なのかを言っておくと、作業は比較的早く終わりますが、言っておかないと、時間がかかる場合もあります。
- ③ 受講者はカードを正しい順番に並べ、文を作ります。
- ④ 自分（たち）の文ができたら、他の受講者の作成した文を読み、話の辻褄が合うと思われる順番に文を並べていき、エピソードを再現します。

#### 正解の並び順

Ich habe vor dem Unterricht noch schnell in der Mensa ein Sandwich gekauft.

Dort habe ich zufällig eine Freundin getroffen.

Am Eingang haben wir uns ziemlich lange über den Test unterhalten.

Deswegen bin ich zu spät zum Unterricht gekommen.

	X	X		X	
Ich	habe	vor dem Unterricht		noch schnell	
			X		X
	in der Mensa		ein Sandwich		gekauft.
		X		X	
Dort	habe	ich	zufällig	eine Freundin	
					X
	getroffen.				
		X	X	X	
Am Eingang	haben	wir	uns	ziemlich lange	
					X
über den Test	unterhalten.				
		X			
Deswegen	bin	ich	zu spät	zum Unterricht	
		X	X	X	
	gekommen.				

# アクティブラーニング的アプローチによる Lesetext を使ったグループワーク

本書では、原則としてグループワークを取り入れ、受講者のアクティブな授業への関与を促していますが、伝統的な訳読型の方法のみを採用して Lesetext を扱いますと、受動性の高い授業となってしまう恐れがあります。そこで、アクティブラーニングの方法論を応用した、以下のグループワークをご提案したいと思います。これらのグループワークは執筆者たちが実際に授業内で運用し、大きな効果があったものです。

## I テクスト訳読以前の、準備段階としてのグループワーク

### 【手順】

- ① 教授用資料 33-34 頁にウォーミングアップの例を記載しておりますので、この例にならったウォーミングアップを行います。
- ② グループ内で、文法理解や訳し方が困難な箇所を学生たちに確認させます。
- ③ その後、クラス全体で Lesetext を訳読みします。

### 【効果】

- ① すでに実践されている先生方も多いと思いますが、執筆者のクラスでもこの手順で行いましたところ、よく理解した受講者がそうでない受講者に教える光景が頻繁に見られました。
- ② 予習の段階ではグループのメンバー全員が分からなかったことが、グループで話し合うことによって自分たちで正解にたどりつく、あるいは正解にたどりつけなかったとしても、どこが分からないのかが明確になります。
- ③ このグループワークの後、クラス全体で訳・文法の確認を行うと、受講者は他のグループが考えたことも共有できると同時に、分かっているつもりだったのに実は分かっていなかった点が確認できます。また、「隠れ分かっていないさん（自分の分からないところを何らかの理由で、グループに提示しない受講者）」が分からないままになることを防止できます。
- ④ 教員はグループワークの様子を観察しながら、受講者がどういうところに問題を抱えているのか把握することもできるので、ポイントを絞って解説することができます。
- ⑤ グループワークは、特に最初の頃は時間がかかりますが、受講者個々人が「分かった」体験を得る機会を増やすことで、より深い理解へと繋がる効果が期待されます。

## II テクスト訳読終了後の、テクスト理解を確認するグループワーク

### パターン A

#### 【手順 A-1】

- ① 各グループでテクストに即した質問を、グループ数マイナス 1 の数だけつくります。
- ② クラスの前で別のグループに口頭で、各グループに対して 1 回質問します。この時、グループのメンバー全員が、最低 1 回は質問するように指示してください。
- ③ 答えるグループは、教科書を見ないで、かつ、できるだけ文形式で答えるように指示します。
- ④ 答えるのはグループの代表者でも、グループ全員が一斉に声を揃えて言うのでも構いません。代表者が答える場合は、必ずメンバー全員が最低 1 回は答えるように指示してください。

## 【手順 A-2】

- ① 宿題として、テクストに即した質問を、グループの人数マイナス自分の数だけつくりさせます。
- ② 次回の授業ではグループワークをし、まず一人が他のメンバーに一人1題ずつ順番につくってきた質問をし、当てられたメンバーは教科書を見ずに、できるだけ文形式でその質問に答えます。

### 質問と答え方のサンプル（Kapitel 1 Lesetext 1）

Wohin fahren viele japanische Touristen?

Viele japanische Touristen / Sie fahren nach Süddeutschland.

Was ist auch sehenswert?

Der Norden ist auch sehenswert. / Auch der Norden ist sehenswert.

あるいは

Wo ist es auch sehenswert?

Im Norden ist es auch sehenswert.

Was sind zum Beispiel Rostock, Lübeck, Hamburg und Bremen?

Sie sind Hansestädte.

Wo ist die Hauptstadt Berlin?

Die Hauptstadt Berlin / Sie / Berlin ist im Osten von Deutschland.

Was gibt es dort / in Berlin?

Dort / In Berlin gibt es viele historische Bauwerke.

Es gibt dort / in Berlin viele historische Bauwerke.

Es gibt viele historische Bauwerke in Berlin.

など

## 【運用上のご提案】

- ▶ A-1もA-2も、「クイズゲーム」のように進行させ、文形式で答えられた場合は2点、語句でしか答えられなかった場合は1点などの得点を設け、1番得点数の高かったグループ（あるいは個人）を最後に表彰するのも良いかと思います。
- ▶ 質問の重複はテクストの長さ、グループ数や人数の関係上、必ずあります。それらの質問の重複によって、受講者は自然な成り行きで繰り返し練習できるという効果があります。したがって、特にはじめのうちには、無理に凝った質問を作らないように、受講者に指示してください。

## **Reiseattraktionen in Deutschland**

Waren Sie ( ) ( ) in Deutschland? Oder planen Sie eine Reise? Viele japanische ( ) fahren nach Süddeutschland. Doch auch der Norden ist ( ). Hier sind die ( ), zum Beispiel Rostock, Lübeck, Hamburg und Bremen ( ) den „( ) Stadtmusikanten“.

Interessieren Sie sich ( ) Geschichte? Dann gehen Sie in die ( ) Berlin ( ) Osten ( ) Deutschland. Es gibt dort viele ( ) Bauwerke, etwa das Brandenburger Tor und Reste der Mauer. Sie erinnern uns an die deutsche ( ). Möchten Sie auch in anderen Städten ( ) und ( ) erleben? Dresden ist nicht ( ) groß ( ) Berlin, aber diese Stadt hat historische Kunstsammlungen, die ( ) Semperoper und die Frauenkirche. Und westlich von Dresden, ( ) der Mitte von Deutschland, liegt Weimar – zwar klein, ( ) sehr hübsch. Hier kann man das Wohnhaus von Goethe ( ) oder ins Bauhaus-Museum gehen.

( ) Sie Museen ( ) langweilig? Wollen Sie lieber Fußball sehen? In ganz Deutschland gibt es große Fußballstadien, ( ) ( ) im Westen in Dortmund oder Gelsenkirchen, sondern auch im Süden in Stuttgart und München. Viel ( )!